

2015年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2015年8月9日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 川 染 三 郎
鴻巣市東1-1-27
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

埼玉地区総会報告

小川教会 末 永廣

二〇一五年度埼玉地区総会は三月二十一日(土)武蔵豊岡教会を会場に、議員一三七名中九十九名の出席を得て開催された。開会礼拝は、この三月で岩槻教会を辞される川中真牧師が説教奉仕され、議長は土橋誠牧師(飯能・地区委員長)が担われた。また、関東教区問安使、熊江秀一牧師(副議長・新津)と飯塚拓也牧師(宣教部委員長・竜ヶ崎)の挨拶を受けた。

(2)二〇一四年度地区諸報告、地区会計決算報告及び会計監査報告 質疑応答後、賛成多数で一括承認された。

(3) 地区委員選挙

教師は、田中かおる(安行・新) 野村忠規(東松山・再)、山岡創(坂戸いずみ・再)が選出された。川染牧師の地区委員長就任に伴う欠員補充として久保島泰(東大宮・新)が任期一年で就任された。信徒は、石川幸男(大宮・新) 川口孝弘(埼玉新生・新)が選出された。任期継続中の教職は金田佐久子(西川口)、末永廣(小川)、信徒は小岩晃(上尾合同)、国府田秀行(上尾使徒)です。なお、布村伸一(教師・熊谷)、豊川昭夫(信徒・越谷)は二期四年を満了された。

(4)二〇一五年度宣教活動計画及び予算について

地区主題は「主にある交わりを深めよう」、聖句「愛する者たち、互いに愛し合ひましよう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです」(ヨハネの手紙一、四章七節)で昨年と同じです。

活動は(1)各委員会・各部の働きを推し進め、支援すること。(2)各個教会・伝道所と共に悩みや喜びを分かち合うこと。(3)「埼玉地区新年台



(1) 地区委員長選挙

土橋誠牧師(飯能)が二期五年を務め退任。予備選挙にて、川染三郎(鴻巣)、中村真(埼玉新生)、本間一秀(川口)、三浦修(埼玉和光)、山岡創(坂戸いずみ)(五十音順)が選ばれ本選挙の結果、川染三郎牧師が過半数を得票し、新地区委員長に決まった。

同礼拝」を地区全体で行うこと。(4)伝道所・集会所への奏楽者派遣について検討することが土橋委員長より提起され賛成多数で可決された。二〇一五年度予算について、会計の金田牧師より説明があり、賛成多数で可決された。

議案第八号地区会計監査委員選出、第九号地区総会議事録承認、第十号次期地区総会会場及び日程については、二〇一五年度の地区委員会に付託することが、賛成多数で可決された。



二〇一五年度の埼玉地区の活動が、主にあつて教会の豊かな真の交わりとなりますよう祈り願います。

最後になりましたが、会場を提供しご奉仕くださいました武蔵豊岡教会の栗原清先生と教会員の皆様から感謝申し上げます。

(地区委員会書記)

たね

三月十八日、朝日新聞が「カトリック『軍事優先』に危機感」と題して、日本カトリック司教団が出したメッセージについて触れていた。メッセージの内容は、「平和を実現する人は幸い—今こそ武力によらない平和を、
一、教会は人間のいのちと尊厳に関する問題に沈黙できない
二、戦争放棄への決意
三、日本の教会の平和に対する使命
四、歴史認識と集団的自衛権行使容認などの問題
五、今の世界の深刻な危機の中で」とあり、かなり具体的に発言している。

かつて戦争遂行に協力した反省を踏まえて、「今の政権の動きを憂慮して人類が歩むべき道にともしびを掲げたい」と語っていると言う。

当初、八月に発表する予定を早めての二月二十五日の発表でした。普段、カトリックに関して興味を示していなかった私にとって驚きであり、学ぶべき発言でした。(金刺泰雄)

地区委員長挨拶

鴻巣教会 川染 三郎



この度、思いがけず埼玉地区長に選ばれました。多

くの方に、高齢だから身体に気をつけてくださいと言われてます。鴻巣教会に招聘されて二年、できるだけ早く地区の諸教会と地区活動を理解したいと思っております。

埼玉地区諸教会が活性化するためには、助け合い、協力し合うことが求められています。今、久喜復活集会所が伝道所設立に向かっています。埼玉地区が生み出す伝道所ですから、祈りと志を共有し、さらに力を結集して、共に歩み出したいと願っています。

鴻巣教会の付属英和幼稚園は園児が少なくなり、運営が困難になりました。その時、宗教学法人立の諸幼稚園から助言とご指導をいただき、その結果、回復しつつあります。

埼玉地区諸教会は、かしらなるキリストの恵みに満たされて、活動の活性化をさらに進めたいと願っています。

新地区委員長挨拶

東大宮教会 久保島 泰



思いもかけないことでしたが、地区委員を仰せつかりました。埼玉に来て二年目、

まだいろいろなおことがわかっていませんので皆様のお祈りに支えていただきたいと思います。

生まれは信州ですが、前任地は伊豆高原でした。海を見慣れて十年経ちましたが、また海無し県に戻ってきたということになります。駅周辺から少し離れると、河川敷周辺に畑が広がっている風景に、ふと懐かしさを感じます。

最近「おおきなかぶはなぜ抜けた？」という本を見つけました。「おおきなかぶ」のテーマはみんな力を合わせること、と語られることが多いようですが、むしろ、抜けるべき時に抜けて、それでみんなが喜んだ、というのが、元々のことのようにです。

ご計画に従って、誰よりも主に喜んでいただけるよう、努めたいと願っています。

安行教会 田中かおる



この度、思いがけず、地区委員を担わせていただく

ことになりました。既に、二〇〇〇〜二〇〇三年度、二〇〇六〜二〇〇九年度にそれぞれ二期四年、合計八年ご奉仕させて頂き多くの学びと恵みを頂いておりました。そのような意味で、選挙の時に「なるべくいろいろな方に担っていただきたい」と申し上げたつもりでしたが、晴天の霹靂でした。

一方で、いつも心がけていることは「忙しいので辞退します」ということは絶対に言わない！ということ。なぜなら、この任務は、教団の教師としての本務だからです。(本当は自分の手帳をみて「やっていけるだろうか…」と青くなっているのですが…)

もうひとつ肝に銘じていることは、埼玉地区は、日本基督教団関東東教区の一地区だということ。この秩序の中で、地区の交わり、助け合いを深めていくことを願っております。

支えられて。

東松山教会 野村 忠規



埼玉地区に来て三年。地区の諸教会の事など何も見

えていない。また地区形成の歴史がどのようなものであったのかも分からない。その様な者が何故地区委員に選ばれたのか分からない。しかし少し分かることは、この地区においても、長く続く教団の紛争の影響を受け、諸教会の関係に傷がついてしまっているということである。そして対立する議論は終わる気配もない。そのため

に我々の教会の身体は、ちょうど自分の身体を自分で悪くする病気に罹っており、日増しに体力は落ち、やせ衰え、外に向かつての「伝道」も「証」も出来ない身体になってしまっているということである。

このような状態では、次の一歩を踏み出す事など出来ないのだ。この状態の中で何が出来るか? いや出来ることはあると思う。出来る小さな事をも一度誠実に積み上げて行く事が大切だと思う。小さな事に

忠実であれとの主の御言葉に

坂戸いずみ教会 山岡 創



埼玉地区委員に選ばれるのは、これで六回、十一年

目となります。信頼して選んでくださった皆様の祈りに応え、また主イエス・キリストの御心を思いながら、務めさせていただきます。

埼玉地区で二十四年目を迎えました。その間の埼玉地区の歩みを見て来ました。私が牧師になった最初の頃は、開拓伝道が盛んでした。埼玉を教区にしようという考えもありました。私自身、地区の多忙さや教区との活動バランスを考えて、地区内の活動を整理、縮小化しよう

と提案したこともありましたが、話し合うことのできる良い交わりでした。

今、埼玉地区の中でも、話し合うことのできる信頼関係が失われつつあると感じます。お互いの意見を聞き、その底にある思いを受け止め、協議し、共にキリストの宣教を担う埼玉地区であってほしいと願っています。

大宮教会 石川 幸男



私が、初めて選出されたのは、十五年以上前です。

埼玉新生教会 川口 孝弘



このたび、思いがけず地区委員をお受けすることに

その頃と現在とでは、地区委員会が抱える問題が大きく変化したと感じています。

当時は、地区に属するそれぞれの教会が抱えている諸問題に対し、地区がどう関わりを持って接していくかが重要だと思っておりました。しかし、先日行われた地区総会に出席し、各委員会の報告を拝聴しておりますと、教会そのものの在り方が、大きな問題になっていると感じました。様々な意見が教会には存在し、これを整理していくのは大変困難な作業です。

受洗のとき、神に委ねた清新な心もいつしか知らず知らずのうちに独り善がりになっていくことがままあります。自分の弱さを知り、主の御声に聞き従うことを忘れず、多くの成果と伝統を受け継ぎながら全力で取り組む所存です。

共に関教を考へ、意見交換の中から主体的な良き働きが生まれ、地区組織が大きな宣教力となることを願ってやみません。課題や困難を乗り越えるには、共に交わり、共に祈り、共に希望を持つことが大きな力となり、神の豊かな恵みのあらわれをそこに見ることができると思っています。

皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

新任教師挨拶

「ご挨拶」

岩槻教会 小林 眞



一九七〇年四月に神学校を卒業して丸四十五年。二教区、三教会で伝道と教会形成に仕えた後、導かれて岩槻教会に。つい先日、数年前に隠退された先輩牧師（八十三歳）が、「今後は余裕をもち、経験を活かし、円熟した伝道牧会が続けられますように」との言葉を贈ってくれました。一般論としてはそうかもしれない。しかし、幼稚園に関わることは初めてのこと。また、大阪で生まれた育った私には、神学生時代を除くと、関東地方での生活も初めて。けれども、栃木県・西那須野教会の草創期の一人が曾祖父であり、祖母の義兄の父が群馬県・桐生教会牧師であったことなどから、隠退後には、これらの教会を訪ねたいと考えていたが、少し早くなるかもしれない。ともあれ、伝道者としても纏めも含め、誠実に岩槻教会に仕えたく願っている。

「ただ主に依り頼みつつ」

熊谷教会 大坪 直史



主の御導きを頂いて、私と妻は、今年度四月から熊谷教会の牧師・副牧師として遣わされて参りました。



熊谷教会 大坪 園子

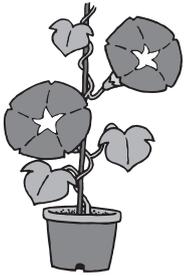
主の恵みに守られ、沖繩での五年間の主任牧師としての任期を終え、この四月より熊谷教会に副牧師として遣わされました。

私は、二〇〇七年、東京神学大学院卒業後、沖繩教区の高原教会へ遣わされ、昨年度三月まで丸八年間、主に任せさせて頂きました。その間、主の豊かな祝福と恵みを頂き、敬愛する先生方や兄弟姉妹と祈りを合わせ、数名の受洗者と転会者が与えられました。また、二〇一一年には最愛の妻が、二〇一三年には最愛の息子が与えられました。

御言葉を執りつぐ器として、祈りと御言葉に専念し、礼拝に集中する歩みを重ねてまいりたいと願います。神様の愛する熊谷教会と熊谷教会の教会員と地域を愛し、救いのために主任の夫と共にお仕えしてまいります。

私は、主の十字架の御受難と御復活における贖いの恵みによって、罪を赦され、永遠の命を与えられて救われた者として、自らの罪深さ・無力さを思い知りつつも、敬愛する先生方や兄弟姉妹と祈りを合わせ、ただ主に依り頼みつつ、福音の伝道と教会の形成のため、暑さで有名な熊谷の地におきまして、伝道に熱くなる教団、伝道に燃える教団の一員として、歩ませたいと願っています。

前任の教会にて、教会全体で祈りを重ねることによって五年で六名の方が救われ、四名の方が転入会なさいました。神様が教会の祈りを聴いて下さる方ができました。無から有を創造して下さる神様です。初めから終わりまで神様の業です。神様がこの熊谷の地に御計画下さっていることに聴いて、神様の御計画に用いて頂けるように、常に御言葉に聴き、十字架と復活の贖いの恵みを下さった救い主なる主イエスを愛し、祈りを重ねてまいりたいと願います。



「主の召しに応えて」

日野原記念上尾栄光教会 東海林昭雄



五年間仕事を辞めた埼玉大通り教会を辞し、四月より

日野原記念上尾栄光教会に赴任させていただきました。

昨年暮れ、祈りの中で「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする」(マタイによる福音書九章十七節)の御言葉が示され、「神の時、転機の時が来た」との確信が与えられました。結果、当教会へと導かれたのですが、主の奇しき導きを覚えます。

何故ならば二十数年前、他教団に属しておりました私が、日本基督教団の教師になろうとの決意を与えられたのが、当教会との出会いがあったからに他なりません。

長年、無牧の時代を信仰をもって教会を守り抜かれた教会員と、志半ばで天に召された前任の長橋晴子先生の思い、そして当教会のために祈り続けてこられた方々の祈りと思いを大切に受け止め、教会員と共に伝道と教会形成に励んで行きたいと思っております。

集会報告

オルガン音楽の歴史

埼玉新生教会 川口 孝弘

第一回教会音楽講習会を六月六日(土)浦和東教会で開催いたしました。二〇一五年年度の年間テーマは「オルガン音楽」です。十一教会二十七名が集い、世界で活躍されているオルガニストの水野均氏(早稲田教会員)をお迎えして「オルガン音楽の歴史」という演題で講演をしていただきました。



教会音楽講習会

オルガンの起源は紀元前まで遡ります。水力で音を出すことからオルガンの歴史は始まり、紀元前一世紀頃にはふいごによる仕組みが発明され、楽器として大きな進化を遂げることとなります。

「IIT祭り」

越谷教会 豊川 昭夫

六月二十一日(日)午後三時から埼玉新生教会にてホームページ委員会主催の第十四回IIT祭りを開催しました。今回のテーマは「メディア伝道の可能性を探る(パート4)」なぜ教会の発信は信者以外に刺さらないのか、講師はキリスト新聞社、雑誌ミニストーリー編集長の松谷信司氏です。



大変刺激的な副題ですが現在、書籍「不思議なキリスト教」や雑誌「PEN」のキリスト教特集、またキリスト教を題材にした漫画が売れたり、NHKの大河ドラマ「八重の桜」や朝ドラの「花子とアン」等、次々と主人公がクリスチャンのドラマが作られキリスト教ブームと言つてよいなか、実際には教会には来ないし、教会の伝道につながるというのは何故かという事です。

大変刺激的な副題ですが現在、書籍「不思議なキリスト教」や雑誌「PEN」のキリスト教特集、またキリスト教を題材にした漫画が売れたり、NHKの大河ドラマ「八重の桜」や朝ドラの「花子とアン」等、次々と主人公がクリスチャンのドラマが作られキリスト教ブームと言つてよいなか、実際には教会には来ないし、教会の伝道につながるというのは何故かという事です。

(教会音楽委員)

(ホームページ委員会委員)

「信じるつもりはないが興味はある」また「教会の礼拝には行かないが見てみたい」という人は沢山いるが、その人達への心に届くような教会からの発信がなされていないのだから。具体的には、「礼拝に来ればわかる」「真理はいずれ伝わる」といった自己陶醉型の説明、またキリスト教の専門用語を使った独りよがりの言葉の説明をしていないかと話され、大変考えさせられる講演でした。

最後に、私達がよく使う「特伝」のチラシのどこの文章のどこが伝わらないのか、駄目なのかを皆で考えて意見交換をしました。



休憩を挟んで、二部は埼玉地区でホームページを持つている教会、今回は聖学院教会とブログをしている浦和別所教会の担当者からお話を聞きました。参加は二十五名・十四教会、東京や千葉からの参加者もありました。

十環境問題講演会報告

行田教会 清水与志雄

六月二十八日(日)午後三時から埼玉和光教会を会場に環境問題講演会を開催しました。講師に片岡輝美氏(放射能から子供を守る会・会津放射能情



報センター代表)を迎え、「原発事故の時代をキリスト者として生きる」と題して以下の講演をしていただきました。「東日本大震災によって見えないものとの闘いが始まりました。関東地方も被災地です。自分たちも当事者だと考えていただきたい。

避難を余儀なくされた人々の間には、目には見えない分断が起こっています。県外避難者には受け入れ先で支援があるけれども、県内避難者は無視されてきました。情報センターでは子どもたちを戸外で遊べるよう『保養プログラム』を持っています。その県内避難者への心ない差別の目にさらしたくないからです。

追悼

太田光夫牧師を偲んで

七里教会 石瀬 譲



七里教会主任の太田光夫牧師が天に帰られた。あまりにも突然でした。四月二十六日の総会から三日後のできごとです。三十日夜、就寝中に先生は天に召され、静かに死につかれたと知らされました。五月三日の聖日礼拝に、牧師の姿が無いので教会中に動揺と不安が広がりました。

葬儀の時の飯塚拓也牧師の言葉ですが、「静まって神様の言葉を聞きましょう」と。幸いにも六月に代務者と説教者三名が与えられ、教会は、漸く落ち着きを取り戻しました。太田先生は、七里教会に就任されて二年目でした。

十教師一泊研修会

国際愛伝道所 許 昌範

二〇一五年七月十三日(月)十四日(火)、別所沼会館へリテイジ浦和で教師一泊研修会が行われました。埼玉地区三十二教会から三十七名の教師が参加しました。

講師として森泉弘次先生(青山学院短期大学名誉教授・下井草教会員)をお招きし、「世界を癒すキリストの福音」を主題に、副題として「異文化の中の教会」をテーマに講演を聞くことが出来ました。また、小山晃佑先生著・森泉弘次先生訳『富士山とシナイ山』画像



批判の試み」を通して学ぶことが出来ました。

特に十三日の第一回講演会では、「ザビエルの日本宣教から、日本人牧師、伝道師、及び信徒が世界を癒すメッセージとしての福音をより有効に伝える上で学ぶべきものは何か」について学びを深めました。また、鴻巣教会の川染三郎先生と越生教会の西海満希子先生からの発題を頂き、具体的な教会でのお働きの中での体験を通しての気づきを学ぶことが出来ました。

十四日の第二回講演会では、「異文化圏における福音宣教を有効ならしめるにはどうしたらよいか小山晃佑に学ぶ」について学びました。また、四つの分団ディスカッションでは、中東文化の目で見たいエスについてとザビエルの日本宣教からの牧会とコイノニア、聖餐・洗礼について、牧師の問題と宣教師たちについてと、今日における伝道・宣教に対する展望等が語られました。

森泉弘次先生をはじめ法克聖親先生と教師一泊研修会のしおりを作って下さった野村忠規先生、教師委員会の皆様から感謝致します。

(教師委員会委員長)

(社会委員会委員長)

役員・伝道委員研修会

東大宮教会 久保島 泰

七月十二日(日)午後三時から五時まで、埼玉新生教会を会場として研修会を開催しました。



今年度は、「現代の伝道(パート3)——こころの友伝道共に歩ませていただくために——」と題して、「こころの友伝道」全国連合会会長の横山義孝牧師にご講演いただきました。

横山先生は西川口教会、東京新生教会の開拓伝道をなされ、関東教区議長もされ、埼玉地区との関わりも深くいらっしゃいます。参加者は三十九名・十四教会でした。

講演はまず「こころの友伝道」の三つの基本についてお話しくださいました。

①福音の宣教は、教会に託された使命。キリスト者はこの使命に召されている。

②「こころの友伝道」は牧師と信徒が互いにパートナーと

なり、チームワークの働きで伝道に携わる。

③「こころの友伝道」は信徒が福音を求める人々のこころ

の友となり、責任をもつて導く。この基本を踏まえ、さらに具体的な実践方法としての「五つの実際」について、横山先生の経験をお話しくださいました。

また、西川口教会のお二人から、具体的な証しがなされ貴重に分ち合いとなりました。

講演の後、質疑応答がなされました。「最近の求道者は深い関わりを避けたがるのでは」との質問がありました。そのような人も、実は関わりを求めており、その人のこころの友として祈ることの大切さをお話しされました。

また、信徒の訓練の場を必要と感じるとの意見が出された事に応じて「こころの友伝道」全国大会が、八月二十四〜二十六日に天城山荘で開催されることのご紹介がありました。

参加者十四教会二十九名でしたが、良い学びと励ましとを与えられました。

(伝道委員長)

(注「こころの友伝道」と教団出版局発行の「こころの友誌」との関わりは特にありません。)

青年部

春の集い

狭山教会 森 淑子

六月二十日(土)、青年部の春の集いが行われました。春の集いは、新しい人を歓迎することを目的としており、楽しい会を行ってまいります。例年は、五月にバーベキューをしていました

が、今年は、六月に埼玉和光教会を会場にカレーパーティーをするようになりました。自分たちでカレーを作って食べ、ゲームやクイズをし、九教会・伝道所から十二名が参加されました。例年より少なかったのですが、その分、お互いがより親しく交わりができたと思います。

青年部は、大学生も社会人もそれぞれ忙しく、なかなか日程が決められない中で、会の企画・準備の段階から自分たちの中から証し者が立てられ、礼拝を守ることができたことはとても良かったと思います。それを聞く参加者も励まされた事でしょう。

夏には、中高生と遊んだり、青年部独自のプログラムによって話し合ったり、どこかに出かけたり、分ち合いをしたり、笑いと涙ありの中・KKS

キャンプが待っています。今年も素敵な思い出が待っているでしょう。

春の集いに初めて参加してくださいました。このキャンプにぜひ参加してほしいと願っています。青年が、一人という教会からもこの地区青年部の集いに、ぜひ、参加してください。そこで、生涯のかけがえのない良き友と出会う事でしょう。

今年の中学・KKSキャンプは、八月十一日(火)〜十三日(木)です。

(教育委員会委員)

寄稿

牧師夫人と女性教職の会

初雁教会 町田さとみ

六月一日(月)、牧師夫人と女性教職の会が、初雁教会を会場に行われました。例年は二月に行われますが、今年度は皆さんが動きやすい六月に開催しました。

当日は十四名が出席。また、山岡磐先生と栗原清先生も出席されました。

今回は、二区がお世話の担当でした。説教は、初雁教会の町



田さとみ牧師がマルコ福音書から「招いておられる主」の題で語り、また交わりと学びは、森淑子先生が「メモント・モリ・森」と題して、「どのよう

に死を考えるか」について講演されました。午後は、お手製の昼食を囲みながら、三つのグループに分かれ、思い思いの「死」について語り合いました。二人の男性牧師は、ひたすら陰の奉仕者として仕えてくださいました。感謝！

日頃教会に仕え、夫の牧師や家族に仕えておられる夫人方と女性教職の諸先生方との気負わない語り合いと交わりがもてたことを感謝します。

特集

地区通信委員会は今年度からしばらくの間、この「特集」のページを埼玉地区六十一教会・伝道所を知るページとして用いる事にしました。各教会の「今・そして課題と展望」をご紹介いただき、お互いを身近に感じ、知り、「主にある交わりを深める」一助になることを期待しています。

教会学校を再開

久美愛教会 遠藤 公義

久美愛教会には、教会学校がありませんでした。教会学校がないとは、未来の主にある教会を支えてくれる若い人たちが、いまここに居ないということ。それは教会にとって深刻な問題です。

『限界集落』と同じ問題を抱えている、ということ。今まで無かったものを、新たに創り出すことは、難しいことです。創意工夫が必要です。

昨年の子供たちがゴスペルで三人の子供たちがゴスペルで賛美をささげ、お祝いの喜び

の体験を通して、教会学校のタマゴが生まれました。こんどは復活祭に向かつて、

イースターツリーを作るために教会学校に毎週集まるという習慣が出来ました。



イースターツリーは、生卵の中身を抜き、殻に絵を描いて、ツリーに糸で結びつけるというものです。中身の生タマゴはホットケーキにして子供たちの朝ご飯になりました。半分は、ホットケーキを食べたくて、休まずに教会学校にやってきました。喜びが主の出来事とつながっているという、この体験はとても大事です。

復活祭の当日は、沢山の綺麗な彩色タマゴを月桂樹の木に飾って主の復活をお祝いしました。六月に礼拝の形ができ、六人が毎週集まっています。小さな種がさらに大きく成長できるように祈って参りましょう。

伝道の現状と課題

川越教会 木ノ内一雄

私達の教会では、近隣の方を対象に昨年からの月一回講師指導の下、「歌唱の会」を開いています。現在約三十名が参加しています。また、三年前からプロの演奏家を招き、年一回チャペルコンサートを行っています。

青年会では「みんなの音楽会」を今までに二回開催しました。いずれも出席者は多く、地域の方々との繋がりが生まれています。また、昨年末から新来会者も何人かおられ、今後に期待が持てます。

しかし、今年になって、五名の方が亡くなり、高齢化も進み、教勢の低下は免れません。その為、財政的にも影響が出て来ています。教会学校の生徒も三月で卒業し、在籍者のいない状況です。その中にある教会を支えている会員一人ひとりの存在は大きいと言えます。

また、学生時代に洗礼を受け、仕事と両立させながら教会生活を続けている青年達の存在は、大きな励みとなっています。中には役員に選ばれた者もいます。彼らの信仰的な成長を見る時、教会内だけでなく地区青年との交わりが大切である



2014年クリスマス祝会にて 歌唱の会有志

て生起する。全ての人は神の行為に対応して、我らを導き給う神の恩寵の認識へと招かれる。この一連の認識のプロセスを客観的に観察する時、「伝道」という人の営為が表現されるであろう。

行田教会には固有な歴史がある。しかし、その殆どは記録されることのない「無告の歴史」「記憶されることのない時間の流れ」である。その時々「土の器」として証言してきた「証人」が主の肢体を継承してきた。人の業は人々の記憶から忘れ去られる。それにもかかわらず今後も、信仰告白は聖霊によって継承されるであろう。

ことを知らされず。彼らの後の世代も続いて来ています。若い人がクリスチャンホームを築くことが教会形成の鍵であり、今後の課題だと思えます。覚えてお祈り下さい。

行田教会がめざす伝道

行田教会 清水与志雄

信仰告白事件は聖霊降臨によつて生起した。そこにはいかなる人間的な行為も介在しない。ただ、神の自由な選びとし

我らはかまびすしい演出的「伝道」には与しない。むしろ真実な「伝道」とは何なのかを常に折り求めてきた。「勧誘」には責任が伴う。信仰対象の真実性の保証は人には不可能事だ。人はそもそもその権利をもたない。ただ出来ることがあるとすれば、信仰対象の真正性を無限に志向する態度・意志を継続する事！

この志以外はないであろう。この志をもって、幼稚園の場ではこどもたちや保護者に、地域の場では、み言葉の宣教に専心してゆく。

地区委員会報告

二〇一五年度第一回委員会

日時 三月二十一日(土)

会場 武蔵豊岡教会

出席 十一人 陪席五人

●主な協議事項

一、埼玉地区総会諸報告承認及び議案決定事項の確認の件
総会補助書記の許昌範牧師の陪席のもと、二〇一五年度埼玉地区総会報告の承認と議案の決定事項の確認を行った。

二、地区委員の担当・役割分担の件

- 委員長 川染三郎
- 副委員長 野村忠規
- 書記 末永廣
- 会計 金田佐久子
- 補助書記 川口孝弘
- 補助会計 国府田秀行
- 伝道 久保島泰
- 教育 山岡 創
- 社会 石川幸男
- 教師 野村忠規
- 地区通信 田中かおる
- HP 金田佐久子
- 修養会 末永廣
- 災害対応 山岡 創
- 壮年部 小岩 晃
- 婦人部 田中かおる
- 青年部 山岡 創

障教懇 小岩 晃

教会音楽 川口孝弘

埼玉連 飯野敏明(委嘱)

同宗連 飯野敏明(委嘱)

川越少年刑務所教誨師

山岡 創(委嘱)

カルト問題

白石多美出(委嘱)

三、委員会日程と会場の件

第二回 五月十二日(火)

会場：埼玉新生教会

●閉会祈祷 山岡 創

二〇一五年度第二回委員会

日時 五月十二日(火)

会場 埼玉新生教会

出席 十一人 陪席 無し

主な報告

●地区内の教会・教師の報告

◎就任 小林 眞(岩槻教会・就任式五月十日)、江田めぐみ(越生教会、大坪直史・大坪園子(熊谷教会)、東海林昭雄(日野原記念上尾栄光教会)

◎代務就任 深井智朗(埼玉大通り教会)

◎牧師逝去 太田光夫(五月一日未明・七里教会)

●会計報告

四月一日から五月十一日分

●各委員会・各部報告

●主な協議事項

一、地区総会付託議案に関する件

◎議案第八号 地区会計監査

選任の件 佐久間文雄(志木・信徒)、藍田 修(鳩山・教師)を選任した。

◎議案第九号 地区総会議事録承認に関する件 継続。

◎議案第十号 次回地区総会

会場及び日程の件 日時：二〇一六年三月二十一日(月) 九時三十分～十六時

会場は、第一候補を聖学院教会とした。継続。

二、地区委員会主催集会等に関する件

◎新年合同礼拝開催に関する件 日時：二〇一六年一月十一日(月) 十時三十分より

会場：上尾合同教会 今年度は、三区合同で行う。地区委員会が主催する。

◎地区総会協議会日程、会場に関する件 日時：二〇一六年二月十二日(金) 十九時より

会場：埼玉新生教会

◎伝道所・集会所との懇談会に関する件 日時：二〇一五年十一月十日(火) 十五時より

会場：埼玉新生教会

三、地区委員会日程及び会場等に関する件 次の予定を承認した。

◎第三回 七月十四日(火)

◎第四回 九月十八日(金)

◎第五回 十一月十日(火)

◎第六回 二〇一六年一月十九日(火)

◎第七回 二〇一六年二月十六日(火)

会場：埼玉新生教会

四、教区総会設営に関する件

設営担当茨城地区からの要請で、受付六名と開会礼拝献金一名を選任した。

五、第六十五回関東教区総会における地区からの各委員会委員推薦の件

六、教団年金補助申請の件 国際愛伝道所(許昌範)からの補助申請三五、六四〇円(二九七〇円×十二カ月)を承認した。

七、教区韓国京畿中部老会訪問の件 地区推薦者一名(川染三郎・教師、樋口忠雄・信徒)を決めて参加費用を補助することを承認した。

八、その他

◎伝道委員会主催「伝道と賛美の集い」(二〇一五年十月開催予定)の件 会場教会が未決定のため助言を求められ、越生教会での開催を提案した。

◎社会委員会委員長再任の件 地区内規六条により、再任を認めない事を確認した。

◎奏楽者派遣の件 継続。

●閉会祈祷：野村忠規

お願い

奏楽者の派遣を希望する教会を募ります。

希望される教会は左記の番号へFAXにて申し込んでください。

鴻巣教会 川染三郎

〇四八五四一七七五八

その際、教会名・連絡先の諸情報(電話番号・携帯・Eメールなど)を明記してください。(地区委員会)

編集後記

二〇一五年度の地区総会において地区委員長、委員が新たに選ばれ、新しい体制のもとに地区の活動が始まりました。また、三教会に四人の教師が就任され、それぞれの教会に仕える思いを込めたご挨拶を寄せていただきました。

今年度からの「特集」は、地区内諸教会・伝道所の紹介として「今・そして課題と展望」を中心に寄稿していただき、地区の主題「主にある交わりを深める」一助となることを期待しています。

当委員会は、二人の委員が新たに加わり、ここに今年度第一号をお届けします。(茨木)